

様式第9

循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
長岡市		H26年度～H30年度	H26.4.1～H31.3.31

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標		現状 (割合※1) (平成26年度)	目標 (割合※1) (平成31年度) A	実績 (割合※1) (平成31年度) B	実績B /目標A
排出量	事業系 総排出量	30,213t	24,828トﾝ (-17.8%)	29,848トﾝ (-1.2%)	120.2%
	1事業所当たりの排出量	2.14トﾝ/事業所	1.61トﾝ/事業所 (-24.8%)	2.22トﾝ/事業所 (+3.7%)	137.9%
	生活系 総排出量	59,869トﾝ	58,937トﾝ (-1.6%)	54,754トﾝ (-8.5%)	92.9%
	1人当たりの排出量	144.9kg/人	142.35kg/人 (-1.7%)	138.0kg/人 (-4.8%)	96.9%
合 計 事業系生活系総排出量合計		90,082トﾝ	83,765トﾝ (-7.0%)	84,604トﾝ (-6.1%)	101.0%
再生利用量	直接資源化量	11,849トﾝ (13.2%)	12,753トﾝ (15.2%)	10,130トﾝ (12.0%)	79.4%
	総資源化量	23,721トﾝ (26.3%)	26,376トﾝ (31.5%)	21,597トﾝ (25.5%)	81.9%
ガス回収量	バイオガス回収量 (Nm ³)	148万Nm ³	173万Nm ³	199万Nm ³	127.6%
減量化量	中間処理による減量化量	60,928トﾝ (67.6%)	54,860トﾝ (65.5%)	57,107トﾝ (67.5%)	104.1%
最終処分量	埋立最終処分量	8,970トﾝ (10.0%)	6,051トﾝ (7.2%)	8,958トﾝ (10.6%)	148.0%

※1 排出量は現状に対する割合、その他の指標は排出量に対する割合
総資源化量の割合は総排出量（集団回収量含む）に対する割合

(生活排水処理)

指 標		現 状 (平成26年度)	目 標 (平成31年度) A	実 績 (平成31年度) B	実績B /目標A
総人口		279,507	270,124	269,920	—
公共下水道	汚水衛生処理人口	241,526	232,543	240,056	103.2%
	汚水衛生処理率	86.4%	86.1%	88.9%	103.3%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口	12,113	11,816	10,287	87.1%
	汚水衛生処理率	4.3%	4.4%	3.8%	86.4%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口	6,072	7,569	5,106	67.5%
	汚水衛生処理率	2.2%	2.8%	1.9%	67.9%
未処理人口	汚水衛生未処理人口	19,796	18,196	14,471	79.5%

2 各施策の実施状況

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
発生抑制、 再使用の推 進に関する もの	11	ごみ減量化とリサイクル 推進の啓発	長岡市	市民と事業者が取り組むごみ減 量・リサイクル推進の効果や重要 性の啓発に努める。 増加する事業系ごみの減量化を 図るため、ごみに関する事業者責 任について周知徹底する。	H26～H30	市政だより、ごみ情報誌等の各種情報誌 を通じてごみの減量・リサイクルの推進 の啓発を図った。
	12	「ごみ情報誌」等の発行	長岡市	「ごみ情報誌」のほか各種情報誌 を発行し、ごみ処理の現状やごみ 減量・リサイクルの取り組み、ご み出しルール等の周知徹底を図 る。	H26～H30	ごみ情報誌「ながおかのごみ改革」を 発行し、ごみの分別や資源化について 周知を図った。
	13	環境教育の推進	長岡市	生ごみバイオガス発電センター を活用した「施設見学」や「出前 講座」などにより環境教育の充実 を図る。	H26～H30	出前講座では、生ごみの分別方法等 について DVD の映像を見ながら説明し、 参加者の理解を深めた。
	14	排出段階、中間処理段階 における減量化の推進	長岡市	簡易包装製品の普及や購入の推 奨、リサイクルショップやフリー マーケット活用の促進などを図 り、排出段階でのごみの減量化を 推進し、中間処理段階での減量化 に努める。	H26～H30	リサイクル協力店を市民から積極的に 利用してもらえるようリーフレットを 作成し、全戸配布を行った。
	15	生ごみの水切りの励行	長岡市	生ごみの水分をできるだけ減ら すよう取り組みを進める。	H26～H30	出前講座等で、生ごみの分別方法や水 切りの方法等について映像を見ながら 説明し、参加者の理解を深めた。
	16	枝葉・草の自家処理励行	長岡市	枝葉・草の扱いは、身近な大地へ の還元を励行する。	H26～H30	出前講座等で、枝葉・草はたい肥化等 により身近な大地に還元するよう説明 し、参加者の理解を深めた。

発生抑制、再使用の推進に関するもの	17	マイバッグ運動等の推進	長岡市	レジ袋や紙袋の排出を抑制するため、マイバッグ運動の普及を図る。併せてマイボトル運動等の普及を図る。	H26～H30	新潟県レジ袋削減県民運動に賛同し、マイバッグ、マイボトルの持参を広く呼びかけた。
	18	生ごみバイオガス化事業による資源の有効活用	長岡市	生ごみの分別の徹底を推進し、バイオガス発電によるエネルギーの有効利用と資源の有効活用を図る。	H26～H30	生ごみバイオガス発電センターで事業系及び家庭系の生ごみを資源として活用し、発電した。また、発酵残渣（残りかす）も燃料等として有効活用した。
	19	資源物の拠点回収や集団回収事業の拡大	長岡市	燃やすごみや燃やさないごみに混入している古着や食器類など資源物の分別徹底と拠点回収や集団回収の拡大を図り一層の資源化を推進する。	H26～H30	子供会・町内会等が実施する資源回収に対し、奨励金を交付することで資源物の回収を推進した。資源物の拠点回収は、常設会場の他に臨時開催の会場を設けることで、資源物の回収を推進した。
	20	事業系紙ごみの減量化と資源化の推進	長岡市	事業所の古紙の搬入制限の強化や生ごみの分別排出徹底を図り、事業系燃やすごみに多く含まれる紙類や食品廃棄物の減量化と資源化を推進する。	H26～H30	「事業所のごみ処理 ガイドブック」を作成・配布し、紙類や食品廃棄物の資源化を広く周知した。
	21	民間のリサイクル事業の普及・活用の推進	長岡市	ごみ減量・リサイクル協力店等の増加や積極的な活用を促し、官民一体となったリサイクルの推進を図る。	H26～H30	リサイクル協力店を市民から積極的に利用してもらえるようリーフレットを作成し、全戸配布を行った。
	22	生活排水対策	長岡市	合併処理浄化槽の適正な維持管理の指導	H26～H30	浄化槽法定検査機関と連携し、合併処理浄化槽の適正な維持管理の指導に努めた。

(以下に続く)

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
処理体制の構築、変更に関するもの	23	分別収集に対する支援体制の強化	長岡市	分別収集等への取り組みについて、市民の協力が円滑に得られるよう支援体制を強化する。	H26～H30	冊子「ごみと資源物の分け方と出し方」やごみ収集カレンダーを全戸配布し、市民が円滑にごみと資源物の分別に取り組めるよう支援した。
	24	事業系ごみの減量対策	長岡市	古紙と生ごみの減量化・資源化を推進する。循環型社会の構築に向けた事業に積極的に参加・協力を要請する。	H26～H30	「事業所のごみ処理 ガイドブック」を作成・配布し、紙類や食品廃棄物の資源化を広く周知した。

(以下に続く)

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
処理施設の整備に関するもの	1	最終処分場整備事業	長岡市	次期処分場を整備する。	H28～R3	令和3年4月より稼働予定
	2	高効率ごみ発電施設整備事業	長岡市	中之島クリーンセンター敷地内に新たな処理施設を整備する。	H30～R5	令和6年4月より稼働予定
	3	粗大ごみ処理施設整備事業	長岡市	中之島クリーンセンター敷地内に新たな処理施設を整備する。	H30～R5	令和6年4月より稼働予定
	4	合併処理浄化槽整備	長岡市	浄化槽設置整備事業	H26～H30	浄化槽設置整備事業での設置基数は239基、処理人口620人を整備した。
	5	合併処理浄化槽整備	長岡市	浄化槽市町村整備推進事業	H26～H30	浄化槽市町村整備推進事業での設置基数は4基、処理人口12人を整備した。
施設整備に係る計画支援に関するもの	31	事業番号1の支援事業	長岡市	生活環境影響調査	H26	事業実施
	32	事業番号2、3の支援事業	長岡市	生活環境影響調査	H26	事業実施
	33	事業番号2、3の支援事業	長岡市	設計業務及びアドバイザー業務	H26	事業実施
	34	事業番号2、3の支援事業	長岡市	解体工事調査・設計	H26	事業実施
	35	事業番号1の支援事業	長岡市	変更実施設計書	H27	事業実施

(以下に続く)

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
その他	41	温室効果ガスの排出削減	長岡市	各クリーンセンターにおける温室効果ガスを管理し、焼却によるエネルギーを有効利用することで化石燃料の消費を抑制し、温室効果ガスの排出削減を行う。	H26～H30	温室効果ガスデータ収集管理システムによりエネルギー使用量及び温室効果ガス排出量等を管理するとともに、場外余熱利用施設へ温水供給を行い、環境負荷の低減を図った。
	42	クリーン作戦等の実施	長岡市	クリーン作戦や環境美化推進員の活動などを通じて市民協働で地域の環境美化を推進する。	H26～H30	年2回クリーン作戦を実施し、各地域の環境美化推進員が中心となり、地域の環境美化を推進した。
	43	監視体制等の強化	長岡市	町内会等と協働のパトロールなど監視体制を強化するとともに不法投棄に対する市民意識の向上を図る。	H26～H30	不法投棄を防止するため地域住民と協働で「不法投棄をさせない・されない環境づくり」に取り組んだ。 また、環境美化重点地域を指定し、見回りを強化した。
	44	大規模災害に関する対応	長岡市	大規模災害が発生した場合、被災地の環境衛生の保全と早期の復興を図るため、事前に地域防災計画の周知を徹底する。	H26～H30	地域防災計画の災害廃棄物処理を補完する災害廃棄物処理計画を策定し、ホームページ等で周知を行った。 また、関係機関との勉強会を継続的に実施し、国や県等が開催する研修会等に参加し、知識・情報の習得に努め、人材育成を図った。

3 目標の達成状況に関する評価

(ごみ処理)

【排出量】

- ・事業系の総排出量は、計画当初と比べ減少しているものの目標の24,828tに対し実績が29,848tとなり目標を達成できなかった。また、事業所数は減少傾向にあり、1事業所当たりの排出量も目標の1.61tに対し実績が2.22tとなり目標を達成できなかった。
- ・生活系の総排出量は、目標の58,937tに対し実績は54,756tとなり、1人当たりの排出量は人口減少しているものの目標の142.35kgに対し実績が138.0kgとなり目標を達成することができた。
- ・事業系生活系総排出量の合計は、目標の83,765tに対し実績が84,604tとなり目標を達成できなかった。事業系ごみの排出量増加が目標未達の要因であり、その削減が今後の課題である。

【再生利用量】

- ・直接資源化量は、目標の12,753tに対し実績が10,130tとなり目標を達成できなかった。
- ・総資源化量は、目標の26,376tに対し実績が21,597tとなり目標を達成できなかった。人口減少に加え、インターネットの普及による電子媒体化が進み、新聞や雑誌等の古紙回収量が大きく減少した。

【ガス回収量】

- ・バイオガス回収量は、目標の173万Nm³に対し実績が199万Nm³となり目標を達成することができた。生ごみの排出量は減少しているもののメタン発酵に適した有機物量は、市民等のごみ分別や水切りの効果により増加していると考えられる。

【減量化量】

- ・減量化量は、目標の54,860tに対し実績が57,107tとなり目標を達成できなかった。事業系ごみの排出量増加が目標未達の要因であり、その削減に向けてさらなる取り組みが課題である。

【最終処分量】

- ・最終処分量は、目標の6,051tに対し実績が8,958tとなり目標を達成できなかった。計画当初と比べほとんど変わらないため、事業系ごみ、生活系不燃ごみ・粗大ごみの減量化及び資源化の推進による処分量削減が今後の課題である。

(生活排水処理)

- ・合併処理浄化槽等の污水衛生処理人口は、目標7,569人に対し実績5,106人、污水衛生処理率は、目標2.8%に対し実績1.9%となり目標を達成できなかった。
- ・污水衛生未処理人口は、目標17,600人に対し実績14,471人となり目標を達成することができた。公共下水道の普及が進んだことにより未処理人口が減少したためと考えられる。

(都道府県知事の所見)

【ごみ処理】

排出量について、事業系の目標は達成していない一方、生活系は、目標-1.6%のところ実績-8.5%となっており、目標を大きく達成し、計画された施策が適正に行われたと認められる。また、ガス回収量についても目標を達成し、計画された施策が適正に行われたと認められる。

再生利用量、減量化量及び最終処分量については、目標が達成されていないため、更なる取組が望まれる。

【生活排水処理】

生活排水処理について、合併処理浄化槽等の污水衛生処理率は目標を達成出来なかったが、污水衛生未処理人口は目標を達成しており、計画された施策による一定の効果は認められる。

地域の実情に応じた生活排水処理施設の整備を検討し、引き続き污水衛生未処理人口の減少に向けた施策の実施が望まれる。